

## 地域水田農業ビジョン策定に係る取組事例

市町村名 新潟県南蒲原郡栄町

☆新潟県のほぼ中央、蒲原平野の南西に位置しており、北は信濃川、南東は緑豊かな丘陵地、中央部には肥沃な田園が広がっている。

☆圃場整備による大型圃場を活用した営農を特色とし、生産組織化を重点的に推進。水稻の良食味生産や大豆の安定生産に力を入れている。



### 取組のポイント

☆全農家を対象としたアンケート調査や集落説明会、農家組合長会議、地区営農委員会等の実施を通じ、農業者意見のボトムアップ（積上げ）方式・合意形成によるビジョンづくりを推進

☆ビジョンの策定過程においては、消費者代表、認定農業者等担い手が参画する検討体制を構築

☆県が推進する「地域農業システムづくり運動」と一体となった取組を実施

☆作物としては、従来の生産体系を継続するとの観点から、大豆を中心に振興

### 取組のキーワード

★★農業者の意見の積上げによるビジョンづくり★★



(地区営農委員会におけるワークショップ(KJ法)：産地づくり対策等の検討状況)

## 取組内容

- 15年5月から事務段階での検討・取組を開始し、夏場以降、集落段階での座談会を開催。その後、地区営農委員会、農業委員による数度のワークショップを実施。11月にビジョン素案（策定エリアは町内一円）を作成（農家への提示）し、JAとのタイアップによる集落説明会の開催等を経て、12月にビジョン案を作成。
- 協議会については、数量配分の第3者機関的組織としても活用することとしており、ビジョンの最終決定時（16年3月）に開催する予定。ビジョンは、経営生産推進会議（システムづくり）と協議会の合同開催で協議、決定。
- 8月開催の集落説明会において、農業（従事者）者を対象に担い手関係及び産地づくり関係のアンケート調査を実施し、担い手の明確化、産地づくり対策の検討に活用。
- 作物生産としては、大豆（生産組織で対応）とえだまめ、里芋、ネギを振興作物として設定し、複合経営の拡充に取組む。
- 担い手の明確化については、経営規模（4ha以上が51人（223ha）、3ha以上が143人（611ha））、認定農業者などのほか地域農業の担い手に意欲のある農業者の中から、集落協議を経て、合意・担い手リストへ掲載。また、生産組織については、20ha以上が17組織あり、既に法人化を目指し取組んでいる組織もある。

## 地域からのメッセージ

- ・当町の持つ豊かな自然、緑と大地を活かしつつ、「農業」のよろこびを享受できるまちづくりを目指します。
- ・水稻と大豆の複合経営が主流となっており、農家のほとんどは兼業農家ですが、ほぼ町内全域で完了したほ場整備、設備の機械化や作業の組織化などにより、新しい米づくりを推進しています。
- ・農家が作りたい農産物を作りただけ作れる産地にしていくために、需要を推察した栽培を進めながらも、栄町産を通じて産地から消費者に対して”新たなメッセージ”を届けていきたい。

## 策定スケジュール

- 15年 7月 栄町水田農業ビジョン事務担当者会議（第1、2回）  
米政策改革に対応する新たな地域農業づくり研修会、農家組合長会議
- 8月 栄町水田農業ビジョン事務担当者会議（第3回）  
集落説明会（40集落）、農家（従事者）アンケート調査
- 9月 栄町水田農業ビジョン事務担当者会議（第4回）
- 10月 地区営農委員会、農業委員による検討（ワークショップ：KJ法）
- 11月 栄町水田農業ビジョン事務担当者会議（第5回）  
栄町水田農業確立推進協議会・栄町経営生産対策推進会議合同会議  
農家組合長会議、栄町生産組織代表者協議会  
集落説明会（JAとのタイアップ）
- 12月 ビジョン案作成
- 16年 3月 栄町水田農業確立推進協議会・栄町経営生産対策推進会議合同会議  
**（ビジョン最終決定）**

## 推進体制（概略）

